

日本初『ドナルド』サーモン 飯寿司開発販売開始



ドナルドサーモンを養殖する森田養鱒場



生簀から揚げられたドナルドサーモン



新発売したドナルドサーモン飯寿司

当社(株)中井英策商店は、このほど、北海道白老町のドナルドサーモンを使用した「ドナルドサーモン飯寿司」を新たに開発、商品化に成功、

脂乗ったピンクの肉厚切り身特徴

北海道白老町の養鱒場と連携



生産者(森田専務様)の声

「当社では、ドナルドサーモンの養殖を30年前から営んでいます。卵から大切に育て、年中水温が8～9度で一定のため、身の締りの良い脂の乗った美味しいのが特徴で、生臭くならないように品種改良も進めて来ました。地元のホテルや旅館、地元スーパーさんの刺身用として出荷していますが、この度中井英策商店さんに飯寿司加工に使って頂き、大変嬉しく思っています」

ドナルドサーモンとは？
アメリカのドナルドソン博士が品種改良した、サケ科サケ属の淡水魚ニジマス的一种。身の色はピンクがかったオレンジで、味もクセが無く食べやすいため、切り身で店頭販売されるほか、外食産業でも多く利用されている。市場やスーパーなどではトラウトサーモンとも呼ばれている。道内では、白老町と池田町の二か所だけで養殖されているが、当社ではその白老町の森田養鱒場で育てられたドナルドサーモンを直接仕入れて、飯寿司の加工を開始した。

この恐らく世界初の飯寿司となるとみられる「ドナルドサーモン飯寿司」の提案者である、大手スーパーコープさっぽろ室蘭地区本部の菅原バイヤーは、試作品を試食後

「これは美味しい!!さすが中井さんの旨味が詰まった美味しい飯寿司です」と絶賛を頂いたことから製品化を決断、試作を重ねた後、今月七月中旬からの発売に踏み切ったもので、淡水魚独特の生臭さを抑えるための様々な工夫も凝らした新製品となった。

ただ、養殖の原料魚を使っているため、生産量に限りがあるため、当面はコープさっぽろさんの室蘭地区店舗と当社通販だけの限定販売とする方針で、今後原料が順調に調達される目途が立ち次第、販売店を拡大していく計画だ。

「きんきん新聞」第32号
2019年(令和元年)7月10日発行
発行:(株)中井英策商店
☎(0142)24-2934
メルアド kinki@nakai-shop.com

中井英策商店とお客様を結ぶコミュニティ新聞

きんきん新聞

当社通販とコープ さっぽろで限定販売

今年8、9月のイベント参加予定

イベント名	開催日	会場
すこやかマーケット in 江別とんでんファーム	8月24、25日 （土、日）	とんでんファーム前広場 （江別市元野幌 968-5）
びっくりバンバンマーケット	9月14、15日 （土、日）	帯広競馬場イベント広場 （帯広市帯広競馬場前）

今年も夏 フェス近づく

今年も夏のイベント、夏フェスの季節がやって来た。
当社では、今年も夏から初秋にかけてのイベントに参加し、出店する。

今年、当社が参加出店する予定のイベントは、お盆明けの八月二十四、二十五日に江別市のトンデンファーム前広場で開催される恒例イベント「すこやか物産展」と、翌月九月十四、十五日に帯広市内の帯広競馬場イベント広場で開催される「びっくりバンバンマーケット」の2会場で、いずれも当社スタッフによる当社の看板商品「キンキいずし」を始めとする飯寿司各種や、当社菓子工場で製造されるパイ菓子製品、さらにキンキなどを使った魚醤油などを販売する予定だ。



きんき商品を詰め合せ オリジナル限定ギフト発売 当社通販限定販売へ

当社、中井英策商店ではこのほど、今年の夏お中元限定企画として、当社常温のキンキ商品を詰め合せた「きんきシリーズ詰め合わせ」ギフトを新発売した。
この商品は、当社の常温商品で、高級魚きんきを原料に使用して製造したオリジナル商品「きんきの露」「キンキの中骨缶詰」「きんきのおかき」「きんきの昆布巻」「きんきのかりんとう」をそれぞれ二個ずつ詰め合せたギフトセットで、全国でも当社だけの真正銘のオリジナルギフト。

販売は、当社通販だけの限定販売を予定しており、価格は五千円（税込五千四百円）。七月下旬から発売予定。



国内だけでなく
輸出も拡大へ

大人のビーフパイ 販売累計五万箱に

当社菓子部門のパイ菓子「大人のビーフパイ」が、今年の五月出荷分で、発売以来累計で五万箱（二箱・十二枚入り）を突破、二〇一四年十二月発売から四年半で目標の五万箱販売に到達した。

この商品は、当社（株）中井英策商店が、「通年で製造販売が見込める新分野商品を開発したい」との思いから、地元北海道壮瞥町の畜産業者と提携して開発した新タイプのパイ菓子で、その名の通り食

べるとビールやワインが呑みたくなるとのキャッチコピーで売り出したもので、発売当初一般消費者対象に行った試食モニター調査では、実に試食した方の九四％が「ビールかワインが呑みたくなった」と語ったことから、このネーミングを決めたという商品。

発売当初は、売れ行きは期待外れが続いたものの、発売から三年目の一昨年から売れ行きが急増、昨年は前年の二・五倍の売上を記録、昨年から香港や台湾などの一部海外への輸出も始まっている。

現在は、当社通販の他、地元地域の道の駅や観光ホテル売店、札幌市内や千歳空港などのお土産店などでの販売が続いている。「テレビや新聞雑誌などマス媒体

でも取り上げて頂く機会が増え、ここに来て製造が間に合わない状態が続いており、嬉しい悲鳴状態。石の上にも三年ではなく、この商品の場合は石の上にも五年だったと当社及川社長は振り返る。

今後は、さらに製造体制を強化して、オファーが舞い込んでくる海外からの注文にも対応していきたい計画だ。



中井英策商店社長の及川昌弘さん



琵琶湖沿線 JR 路線図



近代的な高架駅の大津京駅



天智天皇が祀られる近江神宮大鳥居



車窓から眺める琵琶湖



近江商人の魂が宿る街並の高島びれっじ

■社長の独り言■

思い出旅日記⑦鉄道編

当社、中井英策商店の代表私、及川昌弘は、大の鉄道好きで親しい仲間からは「あいつは乗り鉄だから・・・」と評判が立っています。

そんな私が、日本全国のローカル線を旅する「鉄道旅」シリーズも今回で7回目となりました。今回の旅は、滋賀県を代表する日本一の大湖、琵琶湖を半周するJR西日本湖西線を旅しました。

琵琶湖は、滋賀県の中央に位置する日本一の面積を誇る湖、その右側を走るのがJR琵琶湖線、東海道新幹線も並走しているが、その反対側の西側を湖に沿って走っているのがJR湖西線だ。

その起点は京都府山科駅、終点は滋賀県近江塩津駅で、途中駅が二十一駅、路線距離は七〇・一キロの電化区間である。京都から滋賀県は、私が出版社のライター時代、良く取材に訪れた場所で、今回ほぼ十五年ぶりにこの路線に乗った。

まず、この湖西線の始発駅は京都で、朝八時四十分発の電車に乗り込んだ。訪れたのが平日だったこともあり、通学の学生なども多く、京都から離れる方向だったにもかかわらず意外な混みようだった。

京都を出発して電車は山科駅へ滑り込んだ。大津方面に向かう中学高校生らしき若い学生が大勢乗り込んできた。山科駅を出発すると、電車は向かって右側に並行して走る琵琶湖線とははるかに並走するが、やがて離れ離れになり・・・、そして長いトンネルを抜けると次の駅大津京に到着した。

私はここで、最初の訪問したい場所に向かうことにした。それは、やはり近江神宮だ。

高架駅で思ったより近代的な駅の大津京駅を出て、およそ15分ほど歩くと、近江神宮に着いた。何故ここに来たのか?と言うと、訪問した各地の神社へのお参りが欠かせない私にとって、この近江神宮はさらに特別な存在で、第三十八代天智天皇が祀られている歴史的な神社で、壬申の乱で悲劇的にも僅か五年半で、都が崩壊した「大津京」の名残を残す名跡だからである。万葉集にも歌われるこの大津京は、令和になった今年、どうしても行きたかった場所に行けたことの満足感で一杯になったことは言うまでもない。

古代日本の歴史に浸りながら、大津京駅に戻って次の電車を待った。丁度一〇時発の電車に乗って再度湖西線を北上、次は比叡山駅

日本一の琵琶湖を眺め歴史旅：湖西線(京都～近江塩津)

本駅に到着、歴史好きな私にとってはここも行きたい場所だったが、その思いを抑えつつ次の目的地へ、堅田駅を過ぎると市街地だった鉄道沿線が、田園風景に変わってきた。「ローカル鉄道の旅はこうでなくちゃあ」なんて思いながら、電車は近江舞子駅、そして次の下車駅と決めていた近江高島駅へ着いた。

ここは、有名な「近江商人」の繁栄とスピリットを後世に残そうと、高島市などが江戸末期の商家や蔵を残しながら、歴史や文化の再生保存を図っている街である「高島びれっじ」も歩きたかったからだ。噂にたがわず、歴史的な街並みと、酒蔵や餅やし屋、和菓子屋に珍しい江戸時代から続くろうそく工房などなど、今でもきちんと商いを続けている商人の魂が伝わってくるようだ。また、街中には昔ながらの水路が流れ、タイムスリップしたような街並みに引き込まれた。

そして私は駅に戻り、次の電車に乗り込んだ。

歴史的な街並みを漂わす安曇川駅から新旭駅となる頃には、新興住宅街が広がり、街並みの雰囲気も一変、次の近江今津駅では、列車がそれまでの十二両編成から後ろの四両が切り離され、四両編成へ、ここでやっと地方ローカル鉄道の雰囲気に変わった。

その後は、田舎と山中を走り抜けるのんびりしたムードが続き、そして午後二時過ぎに終点の近江塩津駅に到着した。ここで、電車は終着駅の福井県敦賀駅を目指して走り去った。私はここで、琵琶湖線に乗り換え、米原、京都方面に戻ることにした。

湖西線の全体の印象は、前半はほぼ高架線を走り抜けるローカル線と言うよりは基幹鉄道の印象で、後半になってローカル線の雰囲気となったが、沿線の町並みは歴史と文化が色濃く残る街並みが人々を引き寄せる印象を強く持った。



豊かな水源を象徴するような水田と琵琶湖

道の駅・みたら室蘭

当社は、道内外また海外でも当社商品を販売して頂いているお得意先様が・・・。そんな、お得意先様をお訪ねして、ご担当者様にインタビューする新連載企画を今号から開始致します。

初回の今号では、今年五月のGW前に、リニューアルしたばかりの当社の地元道の駅、「道の駅・みたら室蘭」様、売店責任者の高谷春花さんに取材しました。

今年のゴールデンウィークの混雑は大変でしたね。

リニューアルした店舗をマスメディアでご紹介頂いた効果もあって、来客数、売上とも前年比一五〇％を達成しました。従来のスタッフでは対応できず、臨時のアルバイトを動員して対応しました。

今、売れている商品はズバリ何ですか？

地元室蘭のうずら園さんが製造する「うずらのプリン」がダントツです。当館飲食コーナーで「うずらんソフト」というソフトクリームが新発売され、連日売り切れとなる人気となったこともあって、今年は室蘭うずら園さんの商品が大人気です。

おかげ様で、当道の駅が昨年開業二〇周年を迎えたことから、二十一年目の今年、物

店舗面積がかなり広くなり、ゆったりとした店舗になりましたね。

中井さんの「大人のビーフパイ」も大人気ですよ。売れ筋最上位にランクされています。試食もあればもっと売れると思いますが、試食もすぐに品切れする状態ですから、中井さん！！ご検討宜しくお願いします。また、この時期でも中井さんの飯寿司は売れてますよ。安定しています。

お得意先様訪問①

もかなり売って頂きまして有難うございます。

リニューアル効果で売上げ一・五倍に 当社ビーフパイも大人気に

売上げ一位は
うずらのプリン



写真上は、道の駅みたら室蘭外観、写真中はみたら物販店内、写真下は物販責任者の高谷店長

夏休みやお盆時期はまた忙しくなりますね。

今年のお盆はまた、大型連休になりそうですね。GWのようにお昼休みも取れないほどの忙しさになることを期待しています。

道の駅みたら室蘭物販店、高谷店長さんは、登別市在住の爽やかな笑顔がチャームポイントの独身女性、納品時にはどんなに忙しくても「こんにちわ」とスマイルで応じてくれる癒しの存在です。

アツと驚く!? 新製品、今秋発売へ

当社(株)中井英策商店では、現在全国でも始めて、おそらく世界中でも類を見ないと思われるアツと驚く新製品を開発中です。

計画では、今年秋口頃に製品化、テスト発売にこぎ着けるように現在、商品化の最終段階に入っています。

是非とも、発表を楽しみにお待ちしておりますよう、お願い致します。

(株)中井英策商店